

地震研究所図書室資料展示

～幕末から近代地震学の黎明期～

地震研究所創立へ

日時： 2012年8月7日（火） 10:00～16:00

場所： 東京大学地震研究所 2号館 地下1階

明治13年(1880年)2月22日0時50分頃**横浜強震**。文部省所管の官立学校として東京大学が創設されて間もない当時、明治新政府は欧米の科学技術の急速な輸入を目指し、外国から多くの科学技術者を招いて学生の教育にあたらせていた。いわゆる「御雇外国人教師」である。この横浜強震はマグネチュード5.5～6.0とされており、特別に大きなものではなかったが、好奇心旺盛な若き御雇外国人教師 John Milne(ジョン・ミルン)の心を大きく揺さぶった。地震学の幕開けである。

この展示では、その後、明治24年(1891年)10月28日6時38分**濃尾地震**、大正12年(1923年)11月1日11時58分**関東大地震**が日本人による地震学の始まり「震災予防調査会」の設立や「地震研究所」の創立へとそれぞれ繋がっていたことを図書室所蔵の各資料をもとに紹介する。

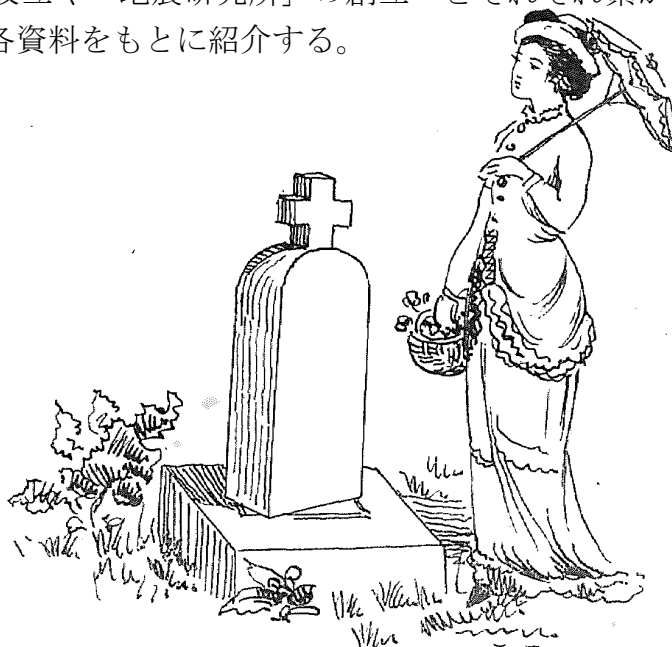


Fig 2. FOREIGN TOMB-STONES YOKOHAMA, JAPAN.

横浜強震による横浜外国人墓地の墓石の回転。ミルンによるスケッチ。立つ人はその後めぐり会って結婚するミルン夫人。

Transactions of the Seismological Society of Japan. 1880, Vol.1 Part II Fig2